



にじのはし幼稚園 園だより



令和3年6月号
港区立にじのはし幼稚園
園長 石川典子

どんよりした空の下でも、にじっこガーデンのアジサイは柔らかな色の花をつけ、登園する幼児たちを迎えてくれています。隣の柑橘の木に住むアオムシは、日に日に大きくなっています。春から初夏への季節の移り変わりを、身近な自然が気付かせてくれます。

5月は、前年度植えた野菜が育ち、正門近くのユスラウメが鈴生りとなりました。年長組を中心に、絹さや、そら豆、グリーンピース、イチゴ、ユスラウメ、玉ねぎと、様々な収穫の体験をしました。年少組は親子でガーデンに行き、背伸びして枝に手を伸ばし、ユスラウメの実をとりました。年中組は青々と茂った葉っぱに隠れるイチゴを見付け、大事にもぎました。年長組は収穫にとどまらず、さやから豆を出し、土の中から引き抜いた玉ねぎを洗い、皮をむいたり干したりしました。

収穫の喜びは大きく、食すことへの期待感や意欲が高まります。園では、素材そのものの味や香りを感じる経験となるよう、イチゴやユスラウメは何もつけず、豆類の味付けはわずかの塩のみです。学年によって食したものは様々ですが、諸感覚を通して、酸っぱさや甘さ、野菜や果実の味を感じていました。

そして、年長組は新たにサツマイモの苗を植えました。夏を超え、秋本番となる10月下旬から11月頃にかけての収穫となりそうです。こちらも楽しみです。

日本は季節の変化があり、時期それぞれに美しさや特徴があります。そのような自然環境のもとで、草花や野菜を育てる活動は、幼児の心をより豊かに育てる大切な機会と捉えます。自分たちで土を耕し、その季節にふさわしい種や球根、苗などを植え、世話をしながらその成長を間近で見るとは、幼児のもつ好奇心や探求心をかき立て、科学的な興味や関心につながります。

草花や野菜の発芽から開花、そして実を結ぶという自然の営みを、幼児たちが目にする機会が少なくなっているからこそ、園では日々、手間をかけ育て方を学びながら、幼児と一緒に花や野菜を栽培しています。幼児は、その直接的な体験を通して自然の営みを知り、自然への畏敬や不思議さに心を揺り動かされます。

幼児期に自然と触れる体験をした子どもは、自然を身近に感じ、自然を大切にできる人へと成長していきます。やがて、人が自然の中に生かされている存在であり、すべての生命が自然の恩恵を受けながら共生して存在していることに気付くことでしょう。

